

---

 資 料
 

---

## 都道府県別将来人口推計における自然増加と社会増加 ： 1990～2010年

廣嶋清志・三田房美

### 1. はじめに

最近、いくつかの都道府県でその人口動向に対して関心が高まり、人口に関する研究会や審議会などが開かれ、その対策について検討が行われている。こうした中で、都道府県別の将来人口における社会増加、自然増加に関心を持たれている。たしかに、人口動向に対する対策を検討するとき、人口流出や出生率などの人口変動要因に関する推計値があると好都合であると思われる。

そこで、今回、将来の都道府県別人口増加について社会増加と自然増加とに分けた値を人口問題研究所による将来人口推計の公表数値<sup>1)</sup>に基づき試算した。なお、この結果は資料の性質により後述のような一定の偏りをもっているので注意を要する。

### 2. 定義および計算方法

人口の自然増加および社会増加とは、多くの人口統計学の教科書にあるように、「自然増加=出生数-死亡数」、「社会増加=転入数-転出数」と定義されるが、年齢別人口の自然増加と社会増加の定義はあまりみられない。年齢別人口の社会増加は自明である。この自然増加も別に難しいことがらでもないが、念のため定義しておこう。0～19歳人口については「出生-死亡-加齢による退出」、20～64歳人口については「加齢による参入-死亡-加齢による退出」、65歳以上人口については「加齢による参入-死亡」である。

このような社会増加と自然増加の日本における計算例はそう多くない。人口は国勢調査によることが基本になるが、自然増加に関わる人口動態統計の集計が1月～12月の期間であり、集計対象が日本人のみで外国人を含まないこと、社会増加に関わる住民基本台帳にもとづく統計がやはり日本人のみを対象としていることなどの理由で、意外に簡単には計算できないからである<sup>2)</sup>。都道府県別の自然増加、社会増加は、総務庁統計局によって計算結果<sup>3)</sup>が公表されており、これがよく利用されている。

将来人口推計においても、都道府県別の出生数、死亡数、転出数、転入数があれば、自然増加、社

1) 厚生省人口問題研究所(金子武治, 石川晃, 稲葉寿, 坂東里江子)『都道府県別将来推計人口(平成4年10月推計)』, 研究資料第275号, 1992年10月。

2) 人口動態統計や住民基本台帳に基づく移動統計が日本人に限定されていることによる問題は以前から指摘されている。たとえば、「国勢調査との統一利用を困難にしている。」(p.167)三瀧信邦, 関彌三郎編, 『経済統計論』, 有斐閣, 1985年。

3) 毎年の値については、最近のものは下記の通り。

総務庁統計局『平成4年10月1日現在推計人口』, (人口推計資料No.65), 1993年6月。

国勢調査間5年間については同じく下記の通り。

総務庁統計局, 『我が国人口の概観』, (平成2年国勢調査解説シリーズNo.1), 1992年3月。

会増加は即座に算出できるが、今回の将来人口推計においてはこれらの数値が計算されていない。そこで、この方法によらず、ここでは封鎖人口（人口移動率0）の推計値を用い、この人口では自然増加のみによって人口が増加したものとみなし、通常の将来推計人口からこの封鎖人口を引いた差を社会増加とみなすことにする。1990～2010年についてのこの計算結果は表1以下に示す通りである。ここに示す社会増加率および自然増加率は社会増加および自然増加を期首人口によって割ったものである。

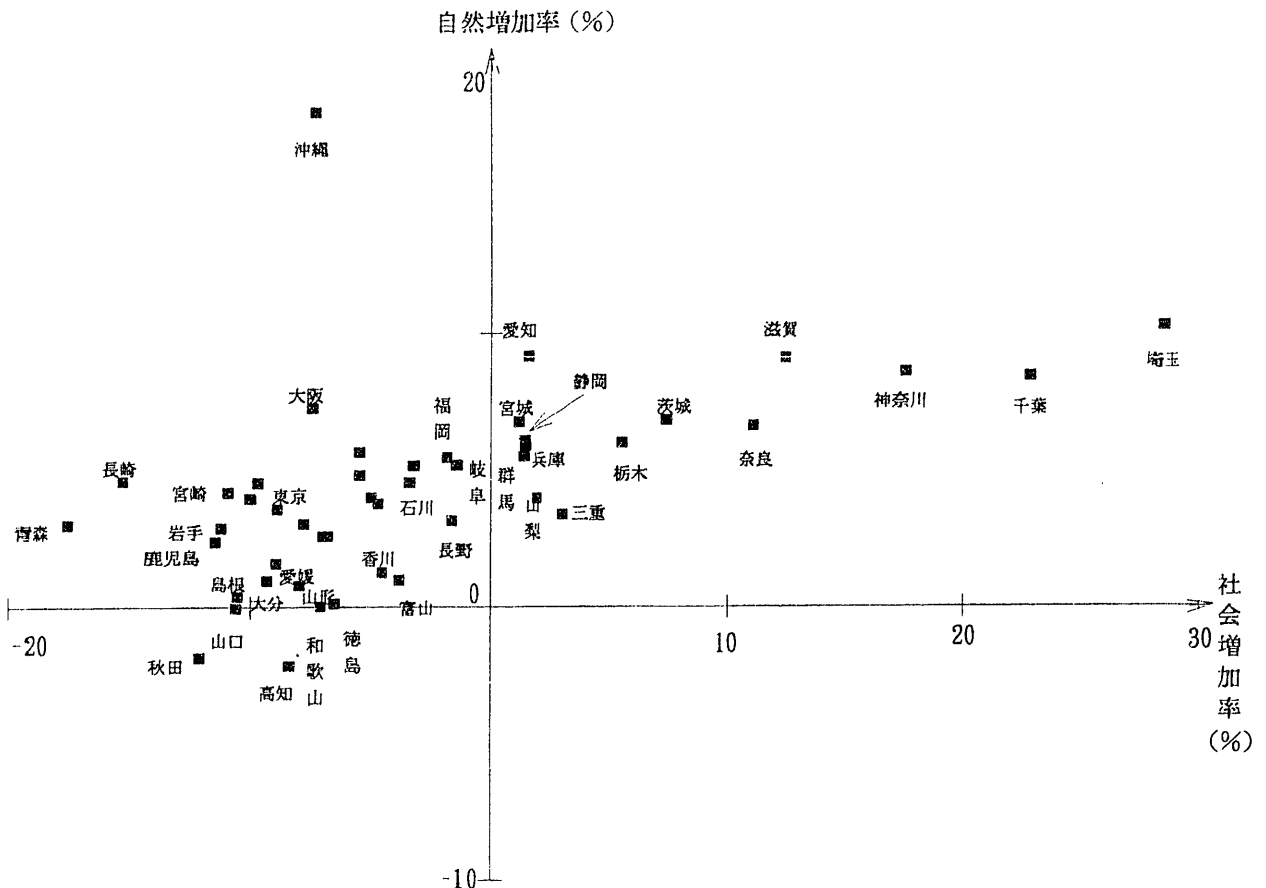
なお、封鎖人口は1990年人口を起点にするものしか発表されていないので、1990～2010年をさらに分割して計算することはできない。

また、都道府県別純移動数には国際人口移動によるものを含んでいるので、本来、日本全体では社会増加は0とならないはずであるが、国際人口移動が極めて少ないものと仮定されているので、ここでは便宜的に日本全体の社会増加は0とされている。

### 3. 計算方法の吟味

このような計算方法の特性と注意点を述べておこう。統計局の公表値のような実際の観察期間において発生した出生数、死亡数は、その期間に発生した転入数、転出数と独立というわけではなく、お互いに影響を受けている。たとえば、一般に転出、転入は若者で多く起こるから、転入が多ければ出生が多くなり、転出が多ければ出生が少なくなる。また、高い転入超過率（プラスの社会増加率）は

図1 都道府県別将来推計人口の社会増加と自然増加：1990年～2010年



資料：表1による。

死亡率を低め、出生率を高め、高い転出超過率（マイナスの社会増加率）は死亡率を高め、出生率を低める。したがって、これらの相互関係を捨象した今回の計算によると転入率の高いところでは自然増加率が過小となり、転出超過率（マイナスの社会増加率）の高いところでは自然増加率が過大となる。したがって、図1に示すような社会増加率と自然増加率の相関関係はより強くなり、その傾きはより大きくなるはずである。

そこで、この計算方法と対照的な方法として、全く逆に、自然増加の方を統制し、出生と死亡が全く存在せず純移動率のみによって人口が変化するという仮定に基づく人口推計を行い、この「無出生・無死亡人口」を社会増加のみにより増加した人口とみなし、通常の将来推計人口からこれを引いた差を自然増加とみなすのである。この方法によれば、上記とは逆に自然増加率の高いところでは転入率が過小となり、自然増加率が低いところでは転出率が過大となる。

結局、封鎖人口による計算と無出生・無死亡人口による計算はいわば両極端の結果を示すもので、これらのふたつの結果をもとにするならば、その平均値がより理想的な結果といえよう。ただし、今回の人口推計では無出生・無死亡人口の推計は行われていない。

ところで、1992年に行われた都道府県別将来人口推計は性・年齢別人口そのものによって都道府県推計値の合計と全国推計値のずれを調整するいわば「人口調整法」によっているが、今後の将来人口推計においては、出生、死亡、移動をより細かく把握することが求められるので、そのためにはたとえばこれらの人口変動要因を別個に性・年齢別に全国推計値と調整する方法（要因調整法）が考えられる。人口変動要因はいずれも全国値が全国人口推計によってすでに算出されているものであり、これと一致するよう調整することにより都道府県別人口の合計そのものも自動的に全国人口と一致することが保障されている。

#### 4. 結果

##### (1) 総人口

都道府県別人口の社会増加率、自然増加率は表1に示す通りで、東京を除く東京圏3県、京阪神圏の滋賀、奈良の2県で高い。愛知、大阪では社会増加率が低いにもかかわらず、自然増加率はわりに高い。沖縄も同様であるが、これは主として出生率が1990年以前から高かったことによるものとみられる。

なお、自然増加がマイナスの県が少ないのはこの方法による歪みを表しており、社会増加率のマイナスが大きい県では自然増加率がマイナスであるものももっと多いものとみられる。

##### (2) 0～19歳人口

0～19歳人口においては、自然増加率は最低（秋田）の-26.2%から最高（滋賀）の-8.6%まで、すべての都道府県でマイナスとなっている。社会増加率は青森の-14.1%から埼玉の24.0%まで自然増加率より差が大きく、マイナスとプラスに分布している。0～19歳人口の増加全体がプラスの県は埼玉、千葉、神奈川、滋賀の4県に限られる。

社会増加率と自然増加率の関係をみると、社会増加率のマイナスが大きい県で、自然増加率のマイナスも大きい（図2）。

##### (3) 20～64歳人口

20～64歳人口においては、社会増加率のばらつきは青森の-49.7%から埼玉の71.0%まで自然増加率のばらつき（秋田-49.7%から沖縄35.5%）より大きい。

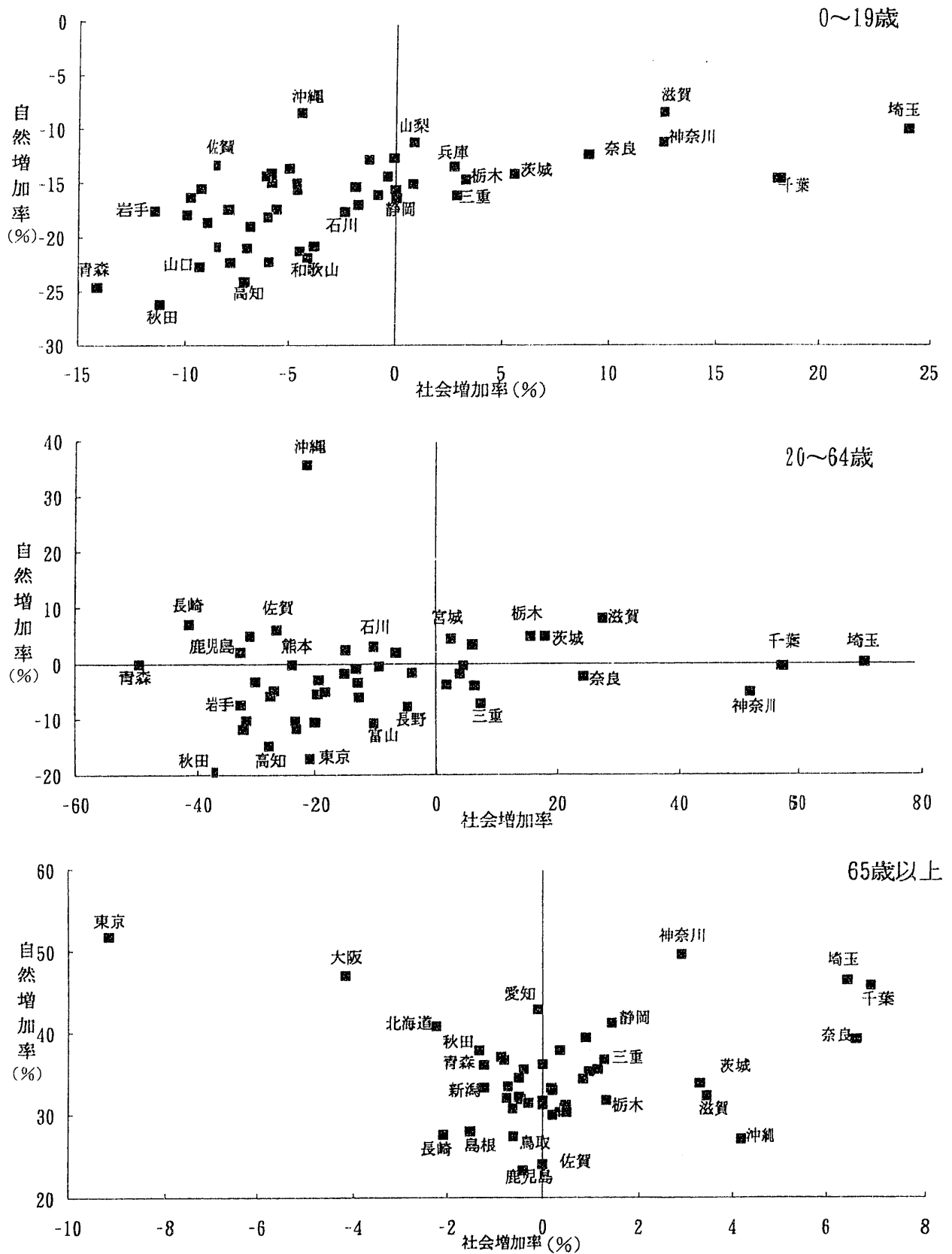
社会増加率と自然増加率との関係をみると、0～19歳人口とほぼ同様の右上がりの関係が現れている。ただし、社会増加率のマイナスの大きい県でもその自然増加率はプラスのところはかなりある。

#### (4) 65歳以上人口

65歳以上人口においては、他の2つの年齢区分とは異なり、自然増加率は鹿児島島の23.2%から東京の51.8%まですべてプラスであり、かつ過疎県で相対的に小さく、大都市地域で大きい。社会増加率は東京の-9.2%から千葉の6.9%までと、自然増加率に比べはるかに小さい。その結果、65歳以上人口が減少する県はない。

社会増加率と自然増加率との関係を見ると、社会増加のプラスにおける右上がりの関係と社会増加マイナスにおける右下がりとは混在しているようにもみえる。

図2 都道府県別年齢別人口の社会増加と自然増加：1990～2010年



資料：表4による。

表1 都道府県別将来推計人口の社会増加と自然増加：1990年～2010年

都道府県	人口(千人)		1990～2010年人口増加(千人)			1990～2010年増加率(%)		
	1990年	2010年	合計	社会増加	自然増加	合計	社会増加	自然増加
全 国	123,611	130,397	6,786	0	6,786	5.5	0.0	5.5
1 北海道	5,644	5,306	-338	-563	225	-6.0	-10.0	4.0
2 青 森	1,483	1,269	-214	-259	45	-14.4	-17.5	3.0
3 岩 手	1,417	1,300	-117	-158	41	-8.3	-11.2	2.9
4 宮 城	2,249	2,428	179	27	152	8.0	1.2	6.8
5 秋 田	1,227	1,056	-171	-148	-23	-13.9	-12.1	-1.9
6 山 形	1,258	1,168	-90	-100	10	-7.2	-7.9	0.8
7 福 島	2,104	2,090	-14	-115	101	-0.7	-5.5	4.8
8 茨 城	2,845	3,251	406	212	194	14.3	7.5	6.8
9 栃 木	1,935	2,159	224	108	116	11.6	5.6	6.0
10 群 馬	1,966	2,102	136	28	108	6.9	1.4	5.5
11 埼 玉	6,405	8,886	2,481	1,825	656	38.7	28.5	10.2
12 千 葉	5,555	7,288	1,733	1,265	468	31.2	22.8	8.4
13 東 京	11,856	11,230	-626	-1,052	426	-5.3	-8.9	3.6
14 神奈川	7,980	10,061	2,081	1,395	686	26.1	17.5	8.6
15 新 潟	2,475	2,371	-104	-168	64	-4.2	-6.8	2.6
16 富 山	1,120	1,089	-31	-42	11	-2.8	-3.8	1.0
17 石 川	1,165	1,179	14	-39	53	1.2	-3.3	4.5
18 福 井	824	816	-8	-41	33	-1.0	-5.0	4.0
19 山 梨	853	904	51	17	34	6.0	2.0	4.0
20 長 野	2,157	2,191	34	-34	68	1.6	-1.6	3.2
21 岐 阜	2,067	2,145	78	-29	107	3.8	-1.4	5.2
22 静 岡	3,671	3,947	276	53	223	7.5	1.4	6.1
23 愛 知	6,691	7,410	719	107	612	10.7	1.6	9.1
24 三 重	1,793	1,909	116	55	61	6.5	3.1	3.4
25 滋 賀	1,222	1,485	263	152	111	21.5	12.4	9.1
26 京 都	2,602	2,607	5	-142	147	0.2	-5.5	5.6
27 大 阪	8,735	8,720	-15	-649	634	-0.2	-7.4	7.3
28 兵 庫	5,405	5,801	396	79	317	7.3	1.5	5.9
29 奈 良	1,375	1,619	244	153	91	17.7	11.1	6.6
30 和歌山	1,074	998	-76	-76	0	-7.1	-7.1	0.0
31 鳥 取	616	589	-27	-43	16	-4.4	-7.0	2.6
32 島 根	781	702	-79	-82	3	-10.1	-10.5	0.4
33 岡 山	1,926	1,909	-17	-90	73	-0.9	-4.7	3.8
34 広 島	2,850	2,906	56	-91	147	2.0	-3.2	5.2
35 山 口	1,573	1,406	-167	-166	-1	-10.6	-10.6	-0.1
36 徳 島	832	779	-53	-54	1	-6.4	-6.5	0.1
37 香 川	1,023	990	-33	-46	13	-3.2	-4.5	1.3
38 愛 媛	1,515	1,404	-111	-135	24	-7.3	-8.9	1.6
39 高 知	825	738	-87	-69	-18	-10.5	-8.4	-2.2
40 福 岡	4,811	4,988	177	-86	263	3.7	-1.8	5.5
41 佐 賀	878	833	-45	-85	40	-5.1	-9.7	4.6
42 長 崎	1,563	1,398	-165	-237	72	-10.6	-15.2	4.6
43 熊 本	1,840	1,753	-87	-143	56	-4.7	-7.8	3.0
44 大 分	1,237	1,134	-103	-115	12	-8.3	-9.3	1.0
45 宮 崎	1,169	1,091	-78	-127	49	-6.7	-10.9	4.2
46 鹿 児 島	1,798	1,636	-162	-205	43	-9.0	-11.4	2.4
47 沖 縄	1,222	1,354	132	-89	221	10.8	-7.3	18.1

資料：人口問題研究所『都道府県別将来推計人口』1992年10月。

注：社会増加は将来推計人口から年齢別純移動率を0として計算された将来人口(封鎖人口)を引いたもの。なお、純移動率0の将来人口は、全国計において本来国際人口移動による増加を除いて計算すべきであり、全国計の社会増加は国際人口移動による増加が現れるべきであるが、少数(28千)であるので0として計算されている。

表2 都道府県別年齢別人口：1990～2010年

都道府県	人 口 (千人)								
	1990年			2010年			2010年(封鎖人口)		
	0～19歳	20～64歳	65歳以上	0～19歳	20～64歳	65歳以上	0～19歳	20～64歳	65歳以上
全 国	32,579	76,105	14,928	27,452	75,200	27,746	27,452	75,200	27,746
1 北海道	1,480	3,488	676	1,062	2,999	1,246	1,149	3,441	1,279
2 青 森	400	691	192	245	692	331	301	891	336
3 岩 手	369	842	206	266	695	338	303	814	341
4 宮 城	622	1,359	268	533	1,402	493	528	1,386	487
5 秋 田	299	737	192	187	568	301	221	678	305
6 山 形	316	738	205	266	632	300	261	705	302
7 福 島	572	1,231	302	453	1,159	477	486	1,245	475
8 茨 城	795	1,711	339	726	1,892	633	682	1,749	607
9 栃 木	533	1,163	239	472	1,272	415	454	1,189	408
10 群 馬	525	1,184	257	447	1,206	449	449	1,182	443
11 埼 玉	1,799	4,074	532	2,049	5,355	1,482	1,617	4,077	1,366
12 千 葉	1,531	3,514	511	1,583	4,388	1,317	1,306	3,506	1,211
13 東 京	2,697	7,905	1,253	1,950	6,879	2,402	2,192	7,441	2,649
14 神奈川	2,071	5,203	707	2,096	6,171	1,794	1,837	5,095	1,734
15 新 潟	639	1,458	378	492	1,298	582	527	1,423	590
16 富 山	283	668	169	210	608	271	223	637	271
17 石 川	313	691	161	250	668	260	258	700	260
18 福 井	217	485	122	173	454	190	183	483	191
19 山 梨	221	505	127	198	510	196	196	496	195
20 長 野	549	1,260	347	471	1,191	530	478	1,217	529
21 岐 阜	561	1,243	263	455	1,212	477	465	1,234	475
22 静 岡	980	2,246	445	819	2,266	862	819	2,227	848
23 愛 知	1,836	4,197	657	1,600	4,369	1,441	1,601	4,259	1,443
24 三 重	472	1,077	243	409	1,077	422	395	1,043	416
25 滋 賀	351	724	147	365	848	272	321	752	260
26 京 都	679	1,595	329	552	1,480	574	586	1,583	580
27 大 阪	2,285	5,603	847	1,829	5,065	1,825	1,961	5,487	1,920
28 兵 庫	1,441	3,320	645	1,285	3,290	1,225	1,245	3,265	1,212
29 奈 良	378	838	159	365	921	332	331	829	307
30 和歌山	273	637	165	202	542	254	213	605	256
31 鳥 取	161	355	100	128	319	143	138	350	144
32 島 根	197	442	142	148	360	194	166	422	197
33 岡 山	508	1,132	286	408	1,048	454	431	1,115	453
34 広 島	759	1,708	382	627	1,632	648	642	1,704	651
35 山 口	398	925	250	270	751	385	307	878	387
36 徳 島	209	493	129	155	429	195	169	471	194
37 香 川	263	603	157	198	553	239	208	587	241
38 愛 媛	393	889	233	283	765	357	310	870	359
39 高 知	202	481	142	139	395	204	153	451	203
40 福 岡	1,306	2,905	600	1,084	2,845	1,059	1,095	2,931	1,048
41 佐 賀	242	503	133	189	454	191	209	518	191
42 長 崎	433	901	229	307	752	339	357	931	348
43 熊 本	485	1,071	284	368	955	430	397	1,070	429
44 大 分	322	724	192	225	617	292	250	705	293
45 宮 崎	324	678	167	229	594	268	256	694	268
46 鹿 児 島	482	1,017	299	356	871	409	403	1,027	411
47 沖 縄	408	693	122	355	751	249	373	838	232

資料：厚生省人口問題研究所『都道府県別将来推計人口』1992年10月。

注：表1参照。

表3 都道府県別年齢別人口増加：1990～2010年

都道府県	1990～2010年人口増加 (千人)								
	合 計			自然増加			社会増加		
	0～19歳	20～64歳	65歳以上	0～19歳	20～64歳	65歳以上	0～19歳	20～64歳	65歳以上
全 国	-5,127	-905	12,818	-5,127	-905	12,818	0	0	0
1 北海道	-418	-489	570	-331	-47	603	-87	-442	-33
2 青 森	-155	-199	139	-99	-0	144	-56	-199	-5
3 岩 手	-103	-147	132	-66	-28	135	-37	-119	-3
4 宮 城	-89	43	225	-94	27	219	5	16	6
5 秋 田	-112	-169	109	-78	-59	113	-34	-110	-4
6 山 形	-80	-106	95	-55	-33	97	-25	-73	-2
7 福 島	-119	-72	175	-86	14	173	-33	-86	2
8 茨 城	-69	181	294	-113	38	268	44	143	26
9 栃 木	-61	109	176	-79	26	169	18	83	7
10 群 馬	-78	22	192	-76	-2	186	-2	24	6
11 埼 玉	250	1,281	950	-182	3	834	432	1,278	116
12 千 葉	52	874	806	-225	-8	700	277	882	106
13 東 京	-747	-1,026	1,149	-505	-464	1,396	-242	-562	-247
14 神奈川	25	968	1,087	-234	-108	1,027	259	1,076	60
15 新 潟	-147	-160	204	-112	-35	212	-35	-125	-8
16 富 山	-73	-60	102	-60	-31	102	-13	-29	0
17 石 川	-63	-23	99	-55	9	99	-8	-32	0
18 福 井	-44	-31	68	-34	-2	69	-10	-29	-1
19 山 梨	-23	5	69	-25	-9	68	2	14	1
20 長 野	-78	-69	183	-71	-43	182	-7	-26	1
21 岐 阜	-106	-31	214	-96	-9	212	-10	-22	2
22 静 岡	-161	20	417	-161	-19	403	0	39	14
23 愛 知	-236	172	784	-235	62	786	-1	110	-2
24 三 重	-63	0	179	-77	-34	173	14	34	6
25 滋 賀	14	124	125	-30	28	113	44	96	12
26 京 都	-127	-115	245	-93	-12	251	-34	-103	-6
27 大 阪	-456	-538	978	-324	-116	1,073	-132	-422	-95
28 兵 庫	-156	-30	580	-196	-55	567	40	25	13
29 奈 良	-13	83	173	-47	-9	148	34	92	25
30 和歌山	-71	-95	89	-60	-32	91	-11	-63	-2
31 鳥 取	-33	-36	43	-23	-5	44	-10	-31	-1
32 島 根	-49	-82	52	-31	-20	55	-18	-62	-3
33 岡 山	-100	-84	168	-77	-17	167	-23	-67	1
34 広 島	-132	-76	266	-117	-4	269	-15	-72	-3
35 山 口	-128	-174	135	-91	-47	137	-37	-127	-2
36 徳 島	-54	-64	66	-40	-22	65	-14	-42	1
37 香 川	-65	-50	82	-55	-16	84	-10	-34	-2
38 愛 媛	-110	-124	124	-83	-19	126	-27	-105	-2
39 高 知	-63	-86	62	-49	-30	61	-14	-56	1
40 福 岡	-222	-60	459	-211	26	448	-11	-86	11
41 佐 賀	-53	-49	58	-33	15	58	-20	-64	0
42 長 崎	-126	-149	110	-76	30	119	-50	-179	-9
43 熊 本	-117	-116	146	-88	-1	145	-29	-115	1
44 大 分	-97	-107	100	-72	-19	101	-25	-88	-1
45 宮 崎	-95	-84	101	-68	16	101	-27	-100	0
46 鹿 児 島	-126	-146	110	-79	10	112	-47	-156	-2
47 沖 縄	-53	58	127	-35	145	110	-18	-87	17

資料：表2による。



表4 都道府県別年齢別人口増加率：1990～2010年

都道府県	1990～2010年増加率(%)								
	合計			自然増加			社会増加		
	0～19歳	20～64歳	65歳以上	0～19歳	20～64歳	65歳以上	0～19歳	20～64歳	65歳以上
全 国	-15.7	-2.8	39.3	-15.7	-2.8	39.3	0.0	0.0	0.0
1 北海道	-28.2	-33.0	38.5	-22.3	-3.2	40.7	-5.9	-29.8	-2.2
2 青森	-38.8	-49.8	34.8	-24.7	-0.1	36.0	-14.1	-49.7	-1.3
3 岩手	-27.9	-39.8	35.8	-18.0	-7.5	36.6	-9.9	-32.3	-0.8
4 宮城	-14.3	6.9	36.2	-15.2	4.4	35.2	0.9	2.5	1.0
5 秋田	-37.5	-56.5	36.5	-26.2	-19.6	37.8	-11.2	-36.9	-1.3
6 山形	-25.3	-33.5	30.1	-17.5	-10.4	30.7	-7.8	-23.2	-0.6
7 福島	-20.8	-12.6	30.6	-15.0	2.5	30.2	-5.8	-15.0	0.3
8 茨城	-8.7	22.8	37.0	-14.3	4.8	33.7	5.6	17.9	3.3
9 栃木	-11.4	20.5	33.0	-14.8	4.8	31.7	3.3	15.6	1.3
10 群馬	-14.9	4.2	36.6	-14.5	-0.4	35.4	-0.4	4.6	1.1
11 埼玉	13.9	71.2	52.8	-10.1	0.2	46.4	24.0	71.0	6.4
12 千葉	3.4	57.1	52.6	-14.7	-0.5	45.7	18.1	57.6	6.9
13 東京	-27.7	-38.0	42.6	-18.7	-17.2	51.8	-9.0	-20.8	-9.2
14 神奈川	1.2	46.7	52.5	-11.3	-5.2	49.6	12.5	52.0	2.9
15 新潟	-23.0	-25.0	31.9	-17.5	-5.5	33.2	-5.5	-19.5	-1.3
16 富山	-25.8	-21.2	36.0	-21.3	-10.8	36.0	-4.5	-10.4	0.0
17 石川	-20.1	-7.3	31.6	-17.7	3.0	31.6	-2.4	-10.4	0.0
18 福井	-20.3	-14.3	31.3	-15.7	-0.9	31.8	-4.6	-13.4	-0.5
19 山梨	-10.4	2.3	31.2	-11.3	-4.1	30.8	0.9	6.3	0.5
20 長野	-14.2	-12.6	33.3	-12.9	-7.8	33.2	-1.3	-4.7	0.2
21 岐阜	-18.9	-5.5	38.1	-17.1	-1.6	37.8	-1.8	-3.9	0.4
22 静岡	-16.4	2.0	42.6	-16.5	-1.9	41.1	0.0	3.9	1.4
23 愛知	-12.9	9.4	42.7	-12.8	3.4	42.8	-0.1	6.0	-0.1
24 三重	-13.3	0.0	37.9	-16.3	-7.3	36.7	2.9	7.3	1.3
25 滋賀	4.0	35.3	35.6	-8.6	8.0	32.2	12.5	27.3	3.4
26 京都	-18.7	-16.9	36.1	-13.7	-1.7	37.0	-5.0	-15.2	-0.9
27 大阪	-20.0	-23.5	42.8	-14.2	-5.1	47.0	-5.8	-18.5	-4.2
28 兵庫	-10.8	-2.1	40.2	-13.6	-3.8	39.3	2.8	1.7	0.9
29 奈良	-3.4	22.0	45.8	-12.5	-2.3	39.2	9.1	24.3	6.6
30 和歌山	-26.0	-34.8	32.6	-21.9	-11.8	33.3	-4.1	-23.0	-0.7
31 鳥取	-20.5	-22.4	26.7	-14.4	-3.0	27.3	-6.1	-19.4	-0.6
32 島根	-24.9	-41.6	26.4	-15.6	-10.3	27.9	-9.3	-31.3	-1.5
33 岡山	-19.7	-16.5	33.1	-15.1	-3.4	32.9	-4.6	-13.1	0.2
34 広島	-17.4	-10.0	35.0	-15.5	-0.5	35.4	-1.9	-9.5	-0.4
35 山口	-32.2	-43.7	33.9	-22.8	-11.9	34.4	-9.4	-31.8	-0.5
36 徳島	-25.8	-30.6	31.6	-19.0	-10.6	31.1	-6.8	-20.0	0.5
37 香川	-24.7	-19.0	31.2	-20.9	-6.1	31.9	-3.8	-12.9	-0.8
38 愛媛	-28.0	-31.6	31.6	-21.1	-4.9	32.1	-6.9	-26.7	-0.5
39 高知	-31.2	-42.6	30.7	-24.2	-15.0	30.2	-7.0	-27.6	0.5
40 福岡	-17.0	-4.6	35.1	-16.2	2.0	34.3	-0.8	-6.6	0.8
41 佐賀	-21.9	-20.2	24.0	-13.4	6.0	24.0	-8.5	-26.3	0.0
42 長崎	-29.1	-34.4	25.4	-17.6	7.0	27.5	-11.5	-41.4	-2.1
43 熊本	-24.1	-23.9	30.1	-18.2	-0.2	29.9	-6.0	-23.7	0.2
44 大分	-30.1	-33.2	31.1	-22.4	-5.9	31.4	-7.7	-27.4	-0.3
45 宮崎	-29.3	-25.9	31.2	-20.9	4.9	31.2	-8.4	-30.8	0.0
46 鹿児島	-26.1	-30.3	22.8	-16.4	2.1	23.2	-9.8	-32.3	-0.4
47 沖縄	-13.0	14.2	31.1	-8.6	35.5	27.0	-4.4	-21.3	4.2

資料：表2, 3による。